



平成24年度 少年少女丸亀市交流事業

紹介します。

【訪問の目的】

京極町の開拓は、丸亀藩主（現在の香川県 京極高徳氏が1897年（明治30年）に5戸27名をワツカタサツ原野に入植させた事が始まりです。本町では、町名の由来ともなりました京極家の縁で、香川県の丸亀市と交流事業を行っています。これまでも丸亀市とは友好都市として、双方のまつりやイベントで物産展を開催するなど、人的な交流も行っていました。今年度は7月30日（月）～8月1日（水）2泊3日の日程で町内の小学4・5年生を派遣することとなりました。本事業は、子ども達が丸亀市の自然と歴史を体験することを通して、京極町を開拓してきた先人のルーツを知り、郷土の自然や生活・文化を理解し、自らが育った郷土への愛着を持つなど郷土心を育むことを目的として実施しています。今回は、子ども達が体験してきた内容や感想について

【訪問の様子】

参加応募者19名のうち抽選で選ばれた8名の子も達は、30日に丸亀市に入り、丸亀市長、丸亀市議会議員、丸亀市教育委員会教育長へ表敬訪問を行った後、丸亀藩の元家臣であった三崎亀之助の碑、瀬戸内海にある本島（ほんじま）を見学しました。翌31日には金比羅宮を参拝した後、土器町のコミュニティセンターでうどんづくりを体験しました。このうどんづくりでは、地元（じょうちゅう）の城東中組子ども会の10人と交流しながら一緒に、元うどん店主らの指導を受け、粉練りや足踏み、伸ばし、切りなどの作業を体験し、打ち立てのうどんに舌鼓をうちました。その後、国内有数の造船会社である今治造船所や京極氏の居城であった丸亀城を見学し、子ども達は城内にある観光案内所で、丸亀特産のうち

わづくりを体験しました。
最終日の8月1日は、丸亀藩主である京極高豊の命により、丸亀城の城下町に造られた日本庭園「中津万象園」を見学し、帰路にきました。

2泊3日という短い期間ではありませんでしたが、子ども達は自分の住むまちのルーツである丸亀市を訪れ、歴史と文化に触れるよい機会となったようです。

【報告会の開催】

交流事業を終え、8月16日には、湧学館視聴覚室において、子ども



本島より瀬戸大橋をバックに



丸亀城天守閣にて



三崎亀之助の碑にて

達による報告会を開催しました。保護者や学校、役員関係者等の前で、子ども達は自分たちで選んだ写真をスクリーンに映しながら、現地での活動の様子や感想を一人一人説明しました。

【参加した児童の感想】 （作文より抜粋）



京極小学校四年
鎌田愛葵

ぼくが一番楽しかったことは、金比羅さんに行ったことです。そ

このガイドさんは、おやじギャグばかり言っていて面白かったです。歩くのを一回とまることに、二回ぐらいギャグを言っていました。ぼくは笑いそうになつたけれど、笑いませんでした。宮崎先生だけが笑っていませんでした。階段があつて、木のつえを使って登りました。階段の段の大きさは、高くなったり低くなったりしていました。前にいた人は、「九十一、九十二、九十三・・・」というように階段の段の数を数えていました。金比羅さんの本当の階段の数は、七

百八十六段だけど、それだと「なやむ」になるので、一段下りて「なやまない」ということで七百八十五段になるのだそうです。登っているの中に、大きなせん風きみたいのがありました。それは、船のスクリューでした。馬もいました。ここに馬がいるのは、馬は神様の使いだから、だそうです。七百八十五段を上がると、金比羅神社がありました。そこにあつた木のはここにぼくは十円しか入れませんでした。もう一人の男の人とふざけて、「一万円入れるから。」と言っていました。